

西尾市  
女性議会  
(第2回)

令和元年11月19日 午後1時30分から午後4時まで

西尾市役所 6階議場

## 議長／本郷照代

皆様、こんにちは。西尾市議会副議長の本郷照代と申します。本日、議長職を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ただいまから、令和元年度女性議会を開会いたします。

初めに、中村市長より挨拶がございます。

## 市長挨拶

### 市長／中村 健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村健です。

女性議員の皆様には、本日は女性議会に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

また、傍聴者の皆様方にも足をお運びいただきまして、この場をかりて感謝申し上げます。

女性議員の皆さん、席に座ってみていかがでしょうか。言ってみれば、ここが西尾市の民主主義の最前線なわけでありますけれども、多分、独特の緊張感があるのではないかなというように思っています。

この女性議会というものは、市民の声が届く市政の実現の一環として昨年度から始めたものでありまして、実際に政治や行政の現実を考えてみますと、なかなか女性の声が届きにくいのも事実でございまして、皆様方が日ごろの生活ですとか、あるいは各種の活動において感じておられることを率直に本日はぶつけていただく中で、我々としても、そのご意見・ご質問を真摯に受けとめて、今後の市政のために反映してまいりたいというように考えております。「緊張しないでください」と言っても難しいかもしれませんが、なるべく力を抜いて、普段どおりの形でご意見・ご質問をいただければというように思います。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

## 議長／本郷照代

これより女性議会の一般質問を行います。一般質問の通告者は、鈴木清子さん、鋤柄美和子さん、鈴木百合子さん、尾崎百合江さん、柴田桂子さん、大溪明日香さん、松井知代美さん、以上の7名です。

質問の順番は、お手元に配付の質問通告書一覧発言順位のとおりでございます。

順次、発言を許します。

最初の質問者、鈴木清子さん。

## 鈴木清子

それでは、通告に従い質問させていただきます。

私のテーマは2つあります。1つ目は、西尾市クリーンセンターへのごみの搬入時における渋滞緩和について。

2つ目は、男女共同参画を推進する地域リーダーの育成についてです。

まず、初めに西尾市クリーンセンターへのごみの搬入時における渋滞緩和について発

言、質問させていただきます。

私は、大型ごみを処分する際、西尾市クリーンセンターを利用しています。通常のごみの処分であれば、町内に設置されたごみステーションや常設資源ステーションを利用すればいいのですが、大型ごみとなると直接クリーンセンターへ搬入しています。いつも一般の搬入車両が調整池まで並び、1時間以上待つこともあります。渋滞の列に並びながら、待ち時間の遅延化を何とか解決できないかと、いつも考えています。

焼却棟内に入ると、パッカー車のごみを投入するブースは比較的空いています。一般可燃ごみを降ろすブースが少なく、これも渋滞を引き起こす要因の1つだと思います。

生活する私たちが、ごみの量を減らすことが一番の解決策だと思いますが、使い捨て文化や過剰包装なども、ごみを増加させる原因だと思います。混み合っているときなどは、事業系ブースを一般可燃ブースとして一部開放するなど、臨機応変な対応はとれないでしょうか。そうすることで渋滞の解消につながると考えます。そこで質問します。

質問1、今年7月、西尾地区において市長と語る市政懇談会が開催されました。その際、クリーンセンターへのごみの搬入時における渋滞に関する質問がありました。市長の答弁では、「現在、渋滞緩和の対策を模索しているので、いましばらく時間をいただきたい」との回答でしたが、その後、4カ月が経過し、どのような対策をしてみましたか。

#### 環境部長／新實正志

クリーンセンターの渋滞につきましては、市民の皆様にご迷惑をおかけしております。クリーンセンターでは、これまでも渋滞の原因につきまして調査を行ってまいりました。原因の1つとして、通常ですと地区のごみステーションや資源ステーションに出すことができるごみの、クリーンセンターへの搬入が多く確認をされました。

そこで本年8月から計量受付においてピラ配布を行いまして、各地区に設けられたステーションの活用についてご協力をお願いしているところでございます。

そのほかの渋滞緩和の対策といたしましては、平成28年度から剪定枝を焼却処理から委託事業でリサイクル処理することとし、その仮置き場を設けたことで待ち時間を短縮いたしました。さらにこの対策について、進入路の安全性を確保した上で改善できるのかどうかを現在検討しているところでございます。

また、搬入車両を分散する観点から、場内の様子をパソコンなどで確認できるウェブカメラの設置も検討しているところでございます。

なお、ご意見をいただきました焼却棟内の事業系ブースを一般可燃ごみブースとして一部開放する件でございますが、事業系ブースと一般可燃ごみブースでは構造が異なりまして、ごみの搬入者及び作業従事者が、ごみピットへ落下する危険がございまして、安全確保のための大規模な修繕が必要となりますので、ご提案の採用は現時点では難しいものと考えております。

以上でございます。

#### 鈴木清子

ありがとうございました。渋滞緩和対策が検討されているということで、ほっとしましたが、ここ数年感じることは、そもそもクリーンセンターの利用者が多くなっていると

ということだと思えます。そこで再質問したいと思います。

再質問、クリーンセンターの利用者が多いということは、年々ごみ量も搬入台数も増えているかと思えますが、その要因は何だと思えますか。

### 環境部長／新實正志

ごみ量及び搬入台数の増加の要因といたしまして、平成13年に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が改正をされまして、野焼きが禁止となり、刈り草や剪定枝などの搬入が特に増加しております。現在の焼却施設は、設計した時点では野焼き禁止を想定しておらず、渋滞の緩和対策が難航しているのが現状でありまして、大変ご不便をおかけしております。できることから調査・研究してまいりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

### 鈴木清子

ありがとうございました。野焼きが禁止になったことで、刈り草や剪定枝を自宅で処分できず、クリーンセンターへ搬入される量が多くなっていることに納得いたしました。

また、焼却施設においても、建設時には予測できない法律改正なども重なり、渋滞を引き起こしていることも十分理解することができました。

現在、計画が進められている岡崎西尾地域広域ごみ処理施設の建設に際しては、十分内容を検討していただきたいと思えます。

続きまして、2つ目のテーマ、男女共同参画を推進する地域リーダーの育成について、発言、質問いたします。

私は、男女共同参画社会の実現を目指し活動する市民活動団体やはぎ会のメンバーです。8月末までは、愛知県男女共同参画審議会委員のメンバーとしても活動していました。昨今、さまざまな分野でリーダーシップを発揮する女性が増えています。少子高齢化が進展する中で、女性のエンパワーメントを推進することは、人権への理解を深めるばかりでなく、社会や企業の持続的な発展にもつながります。これまで男性中心につくられた社会の仕組みの中で、女性に対する固定的な性別役割分担意識が残っており、女性の能力は十分に発揮されてきませんでした。

また、自分自身が活動する中で感じたことは、男女共同参画に向けた意識づくりと、人づくりが大切だということです。本市の町内会や自主防災会などにおいても、男性役員主体の役員構成が長く続いたり、高齢化によって地域活動の担い手が不足しているなどの課題に直面しています。役員制度の改革や積極的に女性に役員を依頼するなど、具体的な取り組みを進めてほしいと思えます。

同時に、役員を依頼されたら責任を持って受けるなど、女性自身の意識改革も必要だと思いますので、一歩踏み込んだ担当部局の取り組みに期待を寄せています。

それでは質問2に移ります。

質問2、現在、市内にはさまざまな地域課題を解決するため、自発的に活動する市民活動団体やグループなどが存在しています。昨年度末、第2次西尾市男女共同参画プラン改訂版が策定されました。プラン策定にかかわる団体調査では、約7割が活動の中で男女共同参画の視点での取り組みを実践しているという回答でした。

地域における男女共同参画の推進は、このように市民活動団体や町内会、自主防災会などが活動の中で、男女共同参画の視点を取り入れていただけることが少しずつではありますが、意識改革につながると考えます。

男女共同参画を推進していく中で、核となる地域リーダーの育成を進めていく必要がありますが、団体や地域への働きかけについて、今年度実施する具体的な施策を教えてください。

### 市民部長／山崎隆文

第2次西尾市男女共同参画プラン改訂版では、政策方針決定の場への女性の参画を基本目標の1つに掲げ、地域組織における役職者への女性登用や地域リーダーの養成を具体的な施策としております。

施策の内容は町内会やコミュニティ団体における役員への女性登用や、研修会や交流会を実施し、女性が地域リーダーとして活躍できる環境づくり、意識改革を行うこととしております。

具体的には女性人材を計画的・継続的に育成することを目的とした愛知県男女共同参画人材育成セミナーの受講生を推薦しているところでございます。このほか、明後日になりますが、11月21日に開催する地域コミュニティ推進協議会の研修会において、女性の意見を避難所運営に反映させるなど、男女共同参画の視点に立った防災活動の必要性について学習機会を設けてまいります。

なお、女性目線での避難所運営の重要性は認識しております。自主防災会の役員に5人に1人程度女性を登用していただき、女性に配慮した避難所運営をしていただくことを担当部署からも本年1月に要望いたしているところでございます。

### 鈴木清子

ありがとうございました。コミュニティや自主防災会などに対して、女性の活躍について少し切り込んだ取り組みが行われていることに安心しましたので、次のステップとしては、取り組まれた状況などを広く市民の皆様に情報提供していただき、みんなでその進捗状況などが共有できればと思います。そうすることで市民の皆さんの意識が少しずつではありますが変化していくのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

答弁の中にもありましたが、県が行う男女共同参画人材育成セミナーにつきましては、その受講生が私どもやはぎ会のメンバーとなっております。やはぎ会は西三河地区を豊田、岡崎・額田、碧海、西尾の4つのブロックに分け、人材育成セミナーの終了生たちが地域に戻り、各種活動を通して個々のスキルアップを図るとともに、地域リーダーとしての活躍を目指し活動しております。

今後につきましても、行政や地域の皆さんと積極的な関わり合いを持ち、地域貢献できればと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

### 議長／本郷照代

鈴木清子さんの質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、鋤柄美和子さん。

### 鋤柄美和子

それでは、通告に従い質問させていただきます。

私のテーマは、西尾市の農業の今後のあり方についてです。

私は愛知県田原市の出身で、田原市内で3年ほど農業を営んでおりました。昨年、結婚を機に西尾市へ転入し、現在は西尾市内の農家さんで働いています。

これまで西尾市の農業のイメージといえば、抹茶ということぐらいしか知りませんでした。そこで西尾市の農業の現状はどのようになっているのだろうか、もっと知りたいと思い、いろいろと調べてみました。2015年農林業センサスによりますと、西尾市の就農人口は3,035人、その中でも64歳以下の就農人口は1,207人となっています。どこの地域でも農業の後継者不足が深刻ではありますが、市内に在住する外国人居住者の方たちよりも就農人口が少ないことに大変驚きました。

また、西尾市の農業は、てん茶栽培のほかに花卉の栽培が盛んなことや、米、麦、大豆を大規模で生産していたり、キュウリやイチゴの施設栽培にも力を入れて取り組んでいることを知りました。

そのような現状の中で、西尾市の今後の農業のビジョンはどのようになっているのだろうと思い調べてみましたが、見つけることができませんでした。

近年、23号バイパス近郊の農地は工場誘致が行われ、米、麦、大豆などを生産する農家は大規模な面積が必要にも関わらず、その農地が消失している現状にあると聞きます。

また、工場が建設されたことにより、風が遮られるようになってしまった影響で、病気の発生が増えたり、工場や駐車場の防犯のため、24時間点灯している照明の影響で生育障害が発生したりもしています。そのほか、田んぼや畑は自然のダム機能を果たすことから、水害から私たちの生活を守る重要な役割を担っていますが、昨今、大雨による水害は各地で大きな被害をもたらしています。アスファルトやコンクリートで固められてしまった地面は、そのような機能を果たしてくれることはありません。農業はその土地で昔から営まれてきており、土地を移り変わることなく、これからも同様にこの地で営まれていくものです。農業の果たす役割は食料の供給だけでなく、地域の環境保全、文化伝承や教育の場、ダム機能としての防災の役割、美しい景観の形成など、多岐にわたる役割を果たしています。これら多くの役割を果たす農業は、地域にとっても重要な基幹産業であると私は思っています。

農業に携わるものにとって、ビジョンの見えない中で農業を営んでいくことは大変不安なことです。そこで質問します。

西尾市の農業に関する将来的なビジョンはどのようになっていますか。

また、現状の課題と課題解決のために、今後取り組んでいかなければならないと考える具体策を教えてください。

### 産業部長／加藤英之

西尾市の農業の将来的なビジョンにつきましては、第7次西尾市総合計画で地産地消の促進と安全・安心な生産物の提供、6次産業による産物の高付加価値化、畜産堆肥の有

機資源を利用した有機農業の推進を定めております。

現状の課題としては、少子高齢化の影響による担い手の減少が進んでいることから、担い手の育成と確保が課題となっております。

これらの課題に対する解決策として、JA西三河が進める「にしお農業塾」や、「いちじくスクール」、「いちごスクール」による新規就農者の育成、AIなどを活用したスマート農業の推進が、これからの西尾市の農業発展のために重要であると考えております。

#### 鋤柄美和子

ありがとうございました。後継者不足の課題に対する解決策として、JA西三河さんが推進する農業塾や各種スクールがあるということで、再質問したいと思います。

にしお農業塾やいちじくスクール、いちごスクールでは、現在何名の方が受講していますか。

また、過去に何名の方が受講し、新規就農につながりましたか。

#### 産業部長／加藤英之

今年度の受講状況につきましては、にしお農業塾が8名、いちじくスクールが6名、いちごスクールが5名でございます。

これまでににしお農業塾には74名が受講し、新規就農者は30名、いちじくスクールは43名が受講して、新規就農者は17名でございました。

なお、いちごスクールにつきましては、今年度から始まった事業でありますので、新規就農につながる実績はございません。

#### 鋤柄美和子

ありがとうございました。これまでに50名近くの方が新規就農につながっていることは、とても素晴らしいことだと思いました。JAさんが行っているこれらのスクールが、より実践的で現状に即した内容だからこそ、このような結果につながっていると思います。今後も継続的に、このような事業が行われ、新規就農者が排出されること、また、新規就農者が長期にわたり安定した経営を継続していけるように、サポート体制の構築もお願いしたいと思います。

農業に関する課題は、後継者不足だけにとどまりません。先の答弁で述べられていたように、AIを活用したスマート農業の推進も、これからの農業には欠くことができないと思っています。施設栽培をされている農家さんの中には、既にAI活用に取り組みされている方もいるようですが、まだまだ多いとは言えない現状だと思います。米、麦、大豆などの大規模農業を営んでいる農家さんの中には、農作業の労力軽減のためにドローンを活用されている方なども出てきています。ドローンを労力軽減のために活用するだけでなく、圃場図の作成や作物の生育状況の把握、また土壌のデータ分析など、AIを活用したものにすれば、より効率的な農業経営を行っていくことができるのではないかと私は思います。

農家さんの中には高齢の方も多く、まだまだAIの活用には及び腰の方も多いと思います。そのような方たちにも広く活用してもらえるようなスマート農業の推進に、今後力

を入れていただけるようお願いしたいと思います。続いての質問に移ります。

私が勤務させていただいている農家さんは、23号バイパスの南側で農業を営んでおります。近隣の農家さんから、「不動産屋から農地を売ってくれないかと相談を持ちかけられた。もう農業をやめようと思う」、「大雨のたびに昼夜問わず排水ポンプを回しにいかなければならない、高齢の体にはきつい」というような言葉が聞こえてきます。23号バイパス近郊の工場建設は、今後どの程度の面積を予定していますか。それに伴う排水整備計画はどのようになっていますか。

#### **産業部参事／打田 淳**

23号バイパス近郊は、西尾市都市計画マスタープランにおいて、工業系の開発計画区域として位置づけられ、民間事業者による工場等の設置がされております。今後の予定につきましては2社の工場建設が進んでおり、面積は合わせて1.2ヘクタールと聞いております。

また、工場建設に伴う排水整備計画につきまして、既設の水路を使用します。敷地内に調整池を設置し放流することで、水路の水があふれないようにしております。

#### **鋤柄美和子**

ありがとうございます。排水整備計画は既設の水路を使用して、調整池を施設内に設置し、そこから放流することで水があふれないような対策をされているということですが、昨今、気候の変動の影響により、各地で大きな水害が繰り返されています。先月の台風19号では、神奈川県箱根町で1日の雨量が900ミリを超え、宮城県丸森町では12時間で500ミリ以上の雨量を観測しています。敷地内の調整池はそのような豪雨にも対応することが可能ですか。数十年に一度と言われるようなことが、近年多く起こっています。今一度、排水整備計画が適切なのか見直す機会にしてみたいはいかがでしょうか。

これは田畑を守るだけでなく、企業誘致で来られた企業さんの財産に加え、私たち市民の生活を守ることもつながります。西尾市にとっては、農業も工業も重要な産業だと思います。両者にとってウィン・ウィンの経営ができるような工場誘致を行ってもらえればと切に願います。

以上で私の一般質問通告を終わります。ありがとうございます。

#### **議長／本郷照代**

鋤柄美和子さんの質問が終わりました。

次に、3番目の質問者、鈴木百合子さんです。

#### **鈴木百合子**

それでは、通告に従い質問させていただきます。

私のテーマは、西尾駅周辺の賑わい創出についてであります。

私は名鉄西尾駅に近い桜木町に住んでいます。10年ほど前、現在の場所に転居してきました。それと同時に運転免許証の更新をやめ、今は自転車、電車、くるりんバスが私の移動手段となっています。中心市街地で暮らすようになり、駅周辺を歩く機会も増え、生

活している者の視点から、駅周辺のまちづくりについて考えてみようと思いました。

ここ数年、駅西は西尾コンベンションホールをはじめカラオケ店やマンガ喫茶、学習塾が立ち並び整備されました。駅の東側にはヴェルサウォークが建ち、西側には今年3月ホテルもオープンしました。駅前周辺の整備が進み、閑散としていた土地に少し活気が戻ったような気がします。

一方、残念に感じることもあります。駅の改札を出て階段を降りた先に観光案内所がありましたが、コンベンションホールの完成とともに、そちらに移転したことでスペースが空いた状態となっています。西尾に到着し、まず目に飛び込んでくる光景が、「入居者募集」の張り紙だったのですが、現在は何もありませんでした。これではおもてなしの心が伝わらないと思います。三河の小京都と呼ばれる風情のある町に、駅前のカラオケ店やマンガ喫茶も少し景観を損ねていると感じます。17万人市民が未来に夢や希望を持って住み続けられるためには、若者が多く住み、高齢者にとっても便利で活気のあるまちをつくることではないでしょうか。西尾駅を公共交通の拠点として、人が移動しやすい、商業施設などに行きやすいなど、中心市街地への流れを活性化することが賑わい創出や観光交流の促進になるかと思えます。

来年3月には寺津方面のバス路線が廃線になるという話を聞きました。公共交通利用のPRを強化してほしいと思います。同時に、西尾市の玄関口となる西尾駅周辺の整備について、特産品である西尾の抹茶や、みどり川四九朝市などの地域資源を生かした駅周辺の賑わい創出にも期待したいと思います。そこで質問します。

質問1、市ホームページを見ると、くるりんバスについてお得な制度の紹介が掲載されています。乗車回数券や、いこまいかーとの乗り継ぎなど、多くの皆さんは知らないと思います。西尾駅を発着点として市内を巡回する、くるりんバスの利用者の増加を図ることが、街中の賑わい創出につながると思えます。お得な制度の周知方法なども含め、くるりんバス利用者の増加を図るため、具体的にどんなことに取り組んでいますか。

## 市民部長／山崎隆文

六万石くるりんバスに関する具体的な取り組みにつきましては、4月に市内の公共交通の運行情報を集約した西尾市公共交通時刻表を作成し、市内の公共施設に配置し、ご好評をいただいているところでございます。

また、沿線の協賛店舗では、一定額以上の買い物をした場合の帰りの乗車券サービスにつきましても、6月1日号の広報に掲載するなど、広報にしてお通して六万石くるりんバスのPRを定期的に行っているところでございます。

このほかにも高齢者向けに地域の会合などに出向き、日常のお出かけ場面を例示したPRや自宅から目的地までの公共交通機関の情報をまとめたマイ時刻表の作成のお手伝い、運転免許返納支援事業のPRや乗り方教室などを行っております。

また、ご意見をいただきましたとおり、来年の3月には名鉄東部交通バスの寺津線と平坂・中畑線につきまして、利用者の減少や運転手不足などによりまして廃止がされますが、これら2路線は六万石くるりんバスに統合するとともに、運行されていないエリアの拡大を図るなど、来年4月からの運行を目指し、市内のバス路線の再編作業を進めているところでございます。

この機会に公共交通利用のPRも強化していきたいと考えております。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 鈴木百合子

ありがとうございました。まだまだくるりんバスや、いこまいかーのことを、よく知らない人も多いと思いますので、今後も積極的なPRをお願いします。質問2に移ります。

質問2、西尾市の中心市街地を再生し、活性化していくことを目的に設置された株式会社城下町PRIDEがあると聞きました。みどり川四九朝市の運営を任せられていると聞いたので、2カ月ほど前、朝市に行き代表者の方とお話をしました。西尾市の商工観光振興において、四九朝市以外に株式会社城下町PRIDEとの連携実績があれば教えてください。

#### 産業部長／加藤英之

まちづくり会社、株式会社城下町PRIDEとの連携実績につきましては、春にみどり川沿いなどが会場となります西尾六万石桜まつりにおける栈敷席の受付管理や本町会場の運営がございます。そのほかに西尾の夏を代表する西尾祇園祭と連携した夜の城下町マーケットを開催しております。

また、新たな取り組みとしましては、みどり川沿いの遊歩道を会場に、9月、10月の金曜日、土曜日の夜にみどり川屋台を開催しまして、賑わいと集いの場を提供いたしました。こうした取り組みが中心市街地での飲食スペースを望む声に応えるものになることを期待しております。

このほか、本年度から市営本町駐車場の維持管理業務を委託しております。

#### 鈴木百合子

ありがとうございました。民間事業者のアイデアや行動力を活用した取り組みがよくわかりました。質問3に移ります。

質問3、最近では四九朝市で買い物をする人も少なくなっていると感じます。株式会社城下町PRIDE代表者の方のお話からも、私は活性化と存続が課題ではないかと感じました。駅から近い立地条件はとても強みだと思います。例えば、インパクトのあるのぼり旗を駅前に設置したり、西尾の抹茶を使用したスイーツ店の出店や、子どもたちが楽しむことができるようなイベントの開催など、子育て世代を中心に多くの方が足を運ぶような仕掛けを市観光協会や民間と協力し、取り組んでみてはどうでしょうか。

#### 産業部長／加藤英之

鈴木様が感じられたとおり、活性化と存続は大きな課題でございます。

まず、活性化策としまして、みどり川四九朝市では、新規出店者募集やお試し出店を実施しております。城下町マーケットでは特産品やグルメなど、多種多様な出店者を集め、幅広い世代が交流できるように、昔懐かしの遊びコーナーや城下町ゼミなどの催しを開催しております。

また、西尾駅周辺市街地を知ってもらうための家族向けイベントとして、市街地をめ

ぐるウォークイベントや謎解きイベントを開催しております。

特産品である西尾の抹茶のPRとしましては、抹茶を使ったパフェやかき氷などのスイーツをキャンペーンに使用することで、SNSを生かした若い世代への周知を図ることができたと感じております。今後も西尾市の中心市街地の活性化、存続のため、まちづくり会社、株式会社城下町PRIDEをはじめ、地元商店街や西尾市観光協会と連携したさまざまな事業を実施して、西尾駅周辺がますます発展していくよう努めてまいります。

#### 鈴木百合子

ありがとうございました。地元商店街や観光協会などと連携を図っていただけるとの答弁ですが、再質問したいと思います。

以前は西尾駅構内に観光案内所がありましたが、コンベンションホールの完成とともに、そちらに移動されました。改札を通り駅の階段を降りたときに、観光案内所の案内看板が目立たないので、目立つ位置に案内看板を変更しませんか。

#### 産業部長／加藤英之

西尾駅構内にある観光案内所の案内看板には、バス乗り場の案内も記載されていることで、看板内の情報量が多く、わかりにくい印象を持たれたことと思います。

しかしながら、駅構内に設置した案内看板は、位置や大きさを自由に変更することができないことで、名鉄との協議が必要となります。今回、ご提案いただきました観光案内所の案内看板の設置場所につきまして、今後、名鉄と協議をしてみたいと考えております。

#### 鈴木百合子

ありがとうございました。駅周辺は来訪者を招くまちの顔、いわゆる玄関口となりますので、わかりやすい動線案内など、駅からまちへ出やすい環境を整えてほしいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

ところで私の持ち時間が、あと2、3分ありますので、少し私の西尾愛を述べたいと思います。2017年5月から7月にかけて、ピースボート80日間地球一周クルーズに参加し、後半、皆さんが地元のPR、例えば、「がんばろう東北」などなどをしてみえたので、私もこのようなTシャツを着て、少しアピールをしました。ちょっと読んでみますね。「抹茶生産日本一、愛知県西尾市。小京都にも入っているよ。ぜひ一度遊びに来てね」と言ってきました。また、去年はおもてなし大学にも参加し、大変勉強になりました。今年は西尾オープンカレッジわくわく西尾歴史散歩にも参加しました。今後は少しでも西尾のために、さまざまなことに参加できたらと思っています。

今日はこのような機会を与えてくださって感謝しております。ありがとうございました。以上で終わります。

#### 議長／本郷照代

鈴木百合子さんの質問が終わりました。

次に、4番目の質問者、尾崎百合江さんです。

#### 尾崎百合江（松崎幸子代読）

本日、尾崎百合江さんは体調不良のため、声を出すことができませんので、私、松崎幸子が代読させていただきます。

それでは、通告に従い質問させていただきます。

私のテーマは、災害時における要配慮者の避難と事前対策についてです。

昨今、日本各地で私たちの記憶に残る大きな災害が次々と発生し、被災を経験しています。ここ西尾市も過去の経験から東海地震、南海トラフ地震が発生した場合、大きな被害が予想されています。ハザードマップや避難所運営マニュアルの作成はもちろん、多言語支援マニュアルの作成も進んでいるとお聞きしています。

また、自助の意識を促すために、去年は女性のための防災リーフレットを作ったり、今年は防災レシピコンテストの開催をしたりと、災害に備える心の準備の大切さに気づけるよう推進してくださっていると感じます。

市民一人一人が自分の身は自分で守る、そして公的な援助に頼り過ぎないという心の準備をすることが第一です。災害時の自助、そして自主防災会の自立が減災の大きな鍵になると私は考えます。

しかし一方で、障害のある方や高齢者、乳幼児を持つ家族は、日々の暮らしの中で時間や気持ちなどに余裕がなく、災害に対する事前準備が行き届かない実情があります。

また、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの福祉施設も同じことが言えると思います。いつ、どこで起きてもおかしくない自然災害の発生に備え、災害時における要配慮者の避難行動を支援するなど、一人一人の個別計画の作成やその進捗状況、フォローアップ状況等を福祉施設と連携を図り、健常者よりも手厚い支援が必要だと考えます。

そこで質問します。高齢者や障害者など災害時要配慮者と言われる方々に対しての福祉避難所の受け入れ体制はどのような状況でしょうか。

#### 健康福祉部長／岩瀬美貴徳

福祉避難所の受け入れ体制につきましては、現在、西尾市では高齢者及び障害者施設と協定を結びまして、36か所を福祉避難所として指定しております。そのうち看護専門学校では、保健所と調整の上、難病のALS患者を受け入れることにしております。災害時には、そうした施設の被害状況を把握し、開設可能である場合には、災害対策本部の指示に基づき受け入れを開始します。

配慮を要する方への対応としましては、発災直後は指定避難所に避難していただき、心身の状況から介護や支援の度合いが高く、通常の避難所の環境では生活が難しいと判断された方が福祉避難所へ移っていただくことになるわけでございます。

#### 尾崎百合江（松崎幸子代読）

ありがとうございました。以前からたびたび福祉避難所についてお聞きしていましたが、今回初めて福祉避難所36か所という具体的な数字を示していただき、対策が進んでいると感じました。福祉避難所の情報を利用者の方々や福祉施設の職員やスタッフ全員で共

有していくよう改めて事業者に働きかけていただきたいと思います。

それでは、質問2に移ります。

日本は高齢化に伴い福祉施設、特にデイサービス施設が充実してきたと感じます。そういった通所介護施設の送迎中に被災した場合、対処方法がどのようになっているか、以前から気になっていたのですが、市としては把握されていますか。

#### 健康福祉部長／岩瀬美貴徳

サービス提供中の災害時のマニュアルは、事業所が作成することとなっております、送迎中の事故や台風時などの対応についても定められているものと思いますが、ご質問の送迎時に災害が発生した場合については、市としては把握しておりません。数か所に問い合わせたところ、特にマニュアルはありませんが、安全確保の上、事業所の指示を受けて行動するとのことでした。

送迎など、移動中の被災状況を想定するのは簡単ではございませんが、まずはその場の状況に応じて身を守る行動をとることが大切であるとともに、非常時の連絡手段の確認、移動ルート上の危険箇所や最寄りの避難所などを把握しておくことが避難行動の大きな助けになるものと思っております。

今後、事業者にこうしたことも視野に入れた対応を考えていくよう働きかけていきたいと考えております。以上でございます。

#### 尾崎百合江（松崎幸子代読）

ありがとうございました。災害に備えるためには、日々の教育や訓練が必要です。事業者の危機管理能力を向上させるのも大事ですが、日ごろから施設同士が情報を提供し合い、共有し、連携体制をつくるのが大切だと考えます。そういった働きかけも重要な行政の役割ではないでしょうか。では、次の質問に移ります。

最近、全盲の方とお話しする機会があり、災害時の不安が大変大きいと感じました。視覚障害者や盲ろう者の方々などについてニーズの把握はできていますか。

#### 健康福祉部長／岩瀬美貴徳

視覚障害を含む障害者や高齢者など、災害時の要支援者につきましては、避難行動要支援者名簿に搭載し、本人の同意のもとで地域の自主防災会長や民生委員に情報提供し、避難誘導や安否確認などの必要な支援を講じていただくようお願いをしております。

また、災害時にどのような支援が必要となるかは、障害の内容や程度、生活状況などによって異なります。現在、地域のご協力のもと、要支援者を対象とした個別計画の作成を進めており、配慮が必要な事項などを把握するとともに、その内容を避難所運営などに生かしていきたいと考えております。

なお、個別計画の内容につきましては、氏名や住所などの本人情報、緊急の連絡先、障害や要介護の程度など、避難行動要支援者名簿に記載されている情報のほか、避難時に支援をしてくれる方の氏名や連絡先、避難支援時の配慮事項、自宅の略図などを具体的に記載するものとなっております、災害発生時の避難支援が迅速かつ適切に行われることを目的としているものでございます。

### 尾崎百合江（松崎幸子代読）

ありがとうございました。避難行動要支援者名簿に関して再質問いたします。

避難行動要支援者名簿を自主防災会長や民生委員に情報提供をしているというお話ですが、活用されているのでしょうか。また、活用している場合は、活用方法を教えてください。

### 健康福祉部長／岩瀬美貴徳

避難行動要支援者名簿は、災害時に支援を必要とする方を把握し、地域において円滑な避難行動や安否確認が行えるよう役立てていただくことを目的としているものでございます。

名簿は地域防災の主体であります自主防災会と日ごろから高齢者などの見守りをされている民生委員に提供しております。要支援者の情報共有やサポートなど、お互いに協力していただくようお願いをしております。

地域の状況によって防災の取り組みはさまざまですが、災害発生時には誰もがまず自分の身を守ることを第一としながら、自力で危険を回避することが困難な方が身近にいることを視野に入れて、地域の防災対策を進めていただきたいと思います。

また、現在、地域で要支援者名簿を活用して個別計画の作成に取り組まれております。この機会を通して、自主防災会と民生委員の連携を一層深めていただき、対象者の状況を把握するとともに、要支援者本人にも日ごろの備えに対する意識を高めていただきたいと思います。

### 尾崎百合江（松崎幸子代読）

ありがとうございました。先日の19号台風では、障害のある息子を避難所に連れていけないと自宅にとどまり、土砂災害に遭ったと報道されました。台風被災地でもハンデのある方々の避難の難しさが浮き彫りになりました。緊急時にも関わらず周囲に迷惑がかけると感じ、避難をためらい、その結果災害に巻き込まれてしまったのです。一旦、指定避難所に避難してから福祉避難所に移るという対応になっているというお話でしたが、指定避難所にすら行けない現状があります。施設任せではなく、地域全体で要配慮者の避難を考えることが大切です。近い将来起こるであろう災害に備え、避難所について、今一度見直す必要があるのではないのでしょうか。

個別計画の作成も進められているということなので、地域内はもちろんのこと、行政とも情報共有をしっかりと図っていただき、誰もが安全で安心に暮らせる災害に強いまちづくりをお願いし、以上で質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

### 議長／本郷照代

尾崎百合江さんの質問が終わりました。

この際、暫時休憩します。午後2時45分より再開いたします。

（休 憩）

（再 開）

### 議長／本郷照代

休憩前に引き続き会議を開き、女性議会一般質問を続けます。

次に、5番目の質問者、柴田桂子さん。

### 柴田桂子

それでは、通告に従い質問させていただきます。

私は、水産業の活性化に向けた取り組みについて発言させていただきます。

西尾市は豊かな自然環境に恵まれ、農水産業が盛んで、その産物も多彩です。本市の水産業については、三河湾に面していることから、アサリ採貝、ウナギやノリの養殖が盛んに行われています。広大な一色干潟をはじめ干潟が数多く存在していることもあり、特にアサリの採貝は盛んで、愛知県での漁獲量は全国1位と聞いています。例年3月から7月ごろには多くの潮干狩り客で賑わっていますが、ここ数年はアサリの成長不良から潮干狩り場の営業中止が相次いでいます。西三河地方の中心漁港である一色漁港をはじめ市内の各漁港では、さまざまな魚介類が水揚げされていますが、漁獲量は減少傾向にあるようです。

また、漁業就業者の高齢化が進むとともに、新たな漁業就業者の減少や不安定な収入が続き、漁業経営が厳しいために漁師のお子さんが必ずしも漁業につくとは限らなくなっています。

以上のように、漁業従業者を取り巻く環境は厳しい状況となっており、経営者の減少と高齢化の同時進行を食いとめる取り組みが必要だと考えます。1980年代初めまで、沿岸漁業では、捕る漁業が中心でした。しかし、平成に入ってから、海の環境の変化や乱獲のために漁獲量が減少し、環境を保護しながら資源を回復させる漁業への転換が叫ばれています。

本市においても、西尾市総合計画に明記されていますが、ある程度まで成長させてから海に放流し、大きくなるのを待ってからとる栽培漁業を推進しています。行政においては海の環境を守り、豊かな水産資源がいつまでも続くよう、これからも指導をお願いしたいと思います。そこで質問します。

総合計画では、漁業の6次産業化を推進し、産物の高付加価値を図ると書かれていますが、どんな状況でしょうか。また、西尾市内の漁業協同組合の経営安定のための取り組み状況についても教えてください。

### 産業部長／加藤英之

漁業の6次産業化につきまして、佐久島周辺海域ではアカモクと呼ばれる海藻が自生しております。近年、このアカモクの高い栄養価から健康効果が注目をされており、西三河漁協佐久島支所と島を美しくつくる会及び県がアカモクを活用した商品開発に取り組んでおります。

また、一色うなぎ組合などは、捕えたシラスウナギを組合が所有するハウスで養殖しまして、組合直営のレストランでウナギ料理を提供する取り組みを実施しております。

各漁協の経営安定のための取り組みでございますが、西三河漁協と衣崎漁協がアサリ漁場の改善と資源の回復を目的としまして、良質な砂を漁場に投入する事業に取り組んでおります。吉田漁協ではアサリに代わる二枚貝として、ハマグリの子苗生産の試験などを

実施しております。幡豆漁協、東幡豆漁協については、アマモの移植や干潟の耕うんなどを実施して、漁場機能の回復に努めております。

#### **柴田桂子**

ありがとうございました。各漁協の皆さんが取り組まれている状況もよくわかりました。質問2に移ります。

若手漁業従業者の確保や担い手の育成が急務だと思いますが、担い手育成事業などの支援制度はありますか。

#### **産業部長／加藤英之**

担い手育成事業につきましては、県が実施する新規漁業就業者確保事業として、新規漁業就業者に対して、座学と海上や陸上作業の指導や船舶操縦免許取得などの支援制度がございます。残念ながら西尾市において新規漁業就業者が制度を活用した実績は、現在のところゼロでございます。

#### **柴田桂子**

ありがとうございました。愛知県が実施する支援制度があるということですが、活動実績について再質問します。制度の活動実績がないということですが、実績が上げられるような方法が何かありますでしょうか。

#### **産業部長／加藤英之**

新規漁業従業者確保事業の活用実績を上げるには、安定した漁獲量が確保できる漁場環境の回復が重要であると考えます。現在、国の補助事業を使って藻場、干潟の保全を目的とするアマモの移植や耕うん、また、アサリの有害生物の駆除のほか、愛知県の下水处理場の基準値以内でのリンの放流を実施するなど、漁場環境の回復に取り組んでおります。

引き続きこうした取り組みを行っていくことで漁場環境が改善され、若手漁業就業者の確保につながり、支援制度の活用実績が上がるものと考えております。

#### **柴田桂子**

ありがとうございました。漁場環境の回復が重要との答弁でありました。数年の活動ですぐに回復するものでもなく、長期の対策が必要であると思いますので、関係者の皆様のご協力に頭が下がります。質問3に移ります。

捕る漁業から育てる漁業への転換を推進していることを私は初めて知りました。地場産業である漁業や市内で水揚げされた魚介類などについて理解を深めるために、子どもたちを対象に取り組んでいる事業があれば、具体的な内容を教えてください。

#### **産業部長／加藤英之**

子どもたちに魚介類の理解を深める取り組みとして、市が行っております食育推進事業において、親子で魚食教室と小学校食育講座を開催しております。親子で魚食教室は、小学生を対象に参加者を募集し、市内の漁業者を講師として招きまして、魚のさばき方や

知識を教わり、実際に魚をさばいてもらっております。

小学校食育講座では、希望される小学校を対象に、ウナギ漁協の職員が講師となって、ウナギに関する講座やウナギを使った料理づくりのほか、地元で獲れたエビを使ったえびせんべい作りの体験を行っております。

### 柴田桂子

ありがとうございました。小学校の授業で漁協職員が講師となり、資源の大切さなどを教える取り組みは、とてもすばらしいことだと思いました。

私は漁師の妻です。漁業の仕事は全く従事していません。漁業のことは全くわかりません。主人が漁に出る日が少なかったり、収入が少ないと、たびたびの夫婦げんかになります。天候によって収入が左右されます。天候に左右されず、安定した収入ができる漁業になるには、どうしたらよろしいでしょうか。皆さんの意見をお聞きしたいと思います。漁場の回復などは、数年の活動ではすぐに回復するものではないと思いますので、長期的な対策を講じていただき、漁業を維持可能な西尾市の産業として、再構築していただきたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。今後の漁業をよろしく願い申し上げます。

### 議長／本郷照代

柴田桂子さんの質問が終わりました。

次に、6番目の質問者、大溪明日香さん。

### 大溪明日香

それでは通告に従い、質問をさせていただきます。

テーマは、スマート子育て自治体を目指した取り組みについてです。説明は、こちらの資料を使ってさせていただきます。

まず昨今、さまざまな自治体でスマート化の取り組みが各地で進められております。西尾市におかれましても、スマート自治体推進プロジェクトが立ち上がり、P a y P a y 等との提携等、市民として非常にどんなふうに市政が変わっていくのか、わくわくしております。

私は市内の製造業の会社に普段勤務をしております。会社でもスマート化、I Tを活用して業務を効率化するということが、今非常に重要になってきておりまして、日々そのような業務に当たっております。

また、小学生の息子がおります。本日は働く母親として、また、小学生を持つ親としてお話をしたいと思います。

まず、働く母親として今感じることなのですが、女性の就業率というのは今急速に上がっております。こちらが総務省の統計なのですが、30代前半の女性の就業率は、今後15%以上上がってくるという予想となっております。それに伴い、共働き世帯もどんどん増加するという状況となっております。共働き世帯が主流になってくると、今までの家庭とどんな変化があるかなということですが、これは民間の調査なんですけれども、共

働き世帯というのは、どうしても仕事にとられる時間が多いので、週3時間程度、年間換算では160時間程度、家庭に注げる時間が減ってしまうというように民間の調査が出ております。

また、一方で、今後日本全体が直面していく課題なのではございますけれども、65歳以上の高齢者が占める割合が2055年には4割以上、労働人口は50%減、これは西尾市政においては税収の減少という課題があると思います。

こういう背景から、子育て世代、現役世代というのは非常に重要な労働力、納税者として位置づけられるというように感じております。

こうなると、西尾市民の生活はどう変わるのかなということで、今回きっかけをいただきましたので、私自身考えてみました。今、それぞれが仕事、介護、子育て、地域コミュニティ、役割分担をしながら協力して生活しているのですけれども、やはりどうしても元気に動ける方の人数が減ってくると、1人の方が複数の役割を担う生活に変わってくるのではないかと考えております。

これは自治体戦略会議の資料にあったのですが、社会構造の変化は間違いなくやってくる。子育て環境の整備が早急に必要だということが政府の資料としても出されております。

続きまして、保護者として感じる学校・保育園の先生の働き方についてです。

こちらは文部科学省の資料を持ってきたのですが、学校の先生たちというのは、月80時間以上の残業をされている方の割合が中学校では6割というデータが出ております。これは、私もこういう生活をしたことがあるのですが、仕事しかできない生活、非常に辛い。子育てとの両立は不可能だと感じます。

また、先生たちは教えることには時間を使えていないそうです。実に日本の先生たちは4割しか教えることに時間を使えていない。じゃあ、先生たちは何に時間をとられているかなということですが、教材のプリント、学級だよりだとか、私も子どもがいっぱい紙を持ってくるのですけれども、こういう紙による事務作業が負担の一因となっているそうです。

文部科学省のプロモーション動画を、ぜひお時間がある方は見ていただくと、本当にわかりやすくまとめられているのですが、学校の働き方改革には、あらゆる立場の方が主体的に行動していかない限り改善しないということを訴えていらっしゃいます。

私が今日この場を借りてお伝えしたいのが、テクノロジー、ITの力を使って、保護者、先生の紙だとかの作業時間を減らしたい。作業時間が減った分、地域の教育や西尾市には素晴らしい地域の絆がありますので、こういうことを守る時間に充てていきたいということで提案をさせていただきます。

提案につきましては、通告のとおりとなっております。一言で言いますと、紙で今やっているものをスマホ、PCを使ったデータでの業務に変えていきたいと思いますという提案になります。ちょっとわかりにくいので、少し具体例を入れて説明をさせていただきます。

まず、学級のお便りが紙でいっぱい来ると、保護者は何をやっているかといいますと、自分の手帳もしくはスマホに一生懸命、学校のスケジュール、いろいろなスケジュールを転記しております。そして仕事のスケジュールとの調整をしている。これはやはりかなりの時間的な負担を感じております。

これを今、お便り管理アプリというものがいっぱい出ておりまして、こういうものを学校のほうで導入をしていただければ、一目で学校のスケジュールが職場にいても確認ができるということで、仕事との両立だとか、できればここに地域コミュニティでの活動等の情報も入れられるようになると、より両立がしやすくなると感じています。

続きまして、先生方の業務なのですけれども、例えば、保護者懇談会が保育園でも小学校でもあるのですが、これは先生方が日程調査のアンケート等をつくられて、それを印刷し、生徒を通じて配布・回収、それを恐らく一旦、エクセル等に入力して、どの児童をどこに割り当てるかを決めた上で、また児童に連絡するということがされていると思います。これは一般的に作業に当たるものになると思います。これもスマホ等を使ったアプリを導入すれば、スマホにアンケートを配信して、それで入力してもらって、自動集計機能がありますので、非常に業務については短縮されると思います。私は会社で実際にやっております。680円のサービスを使って200時間ほどの時間削減をしております。小学校においても同等クラスの時間削減ができるのではないかと感じております。

続きまして、保育園での保育記録等なのですが、私は同級生に保育士をやっていた子がいました。ただ、彼女は最近やめてしましまして、すごく子どもが好きだった子だったので、話を聞いたら、「持ち帰り作業が非常に辛かった」というふうに言っておりました。園児の状態だとか、今後の保育をどうするかということをもとめる作業があるそうなのですが、子どもが帰ってからでないとできないということで、それを家に持ち帰ってやっていたそうです。これは1つ解決策として、アプリを入れたタブレットを保育園のほうに準備して、タブレットですと、選択式で入力ができますので、机がなくてもタブレットさえあれば、その場で入力ができます。

また、子どもが落ち着いているすき間時間に先生たちが業務を行うことができる状態になります。

あと、こちらは先生、あと地域の町内会とか子ども会、PTAでも全て同じだと思うのですが、物品購入だとか集金の業務というものがあります。これは今、注文書を配布して、各家庭を回って集金をして、その集計を発注ということをやっているのですが、学校においては、かなり先生方の負担になっているのではないかと思います。アプリと、例えば最近、西尾市が提携を発表されたPay Payですね。こちらが連携してくれば、アプリケーションで注文をし、そのままPay Payで決済をする。発注もそのままできるということで、先生たちは届いたものを配るということにだけ時間を使いますので、短縮された時間を、子どもと過ごす時間に使ってもらおうということができないのかなというように思いながら、いろいろ調べました。

私も会社でやっていることと同じなのですが、テクノロジー活用というのは、3つのポイントがあると言われてます。トップのリーダーシップ、関係者の合意、テクノロジー人材の参加です。西尾市におかれては、トップのリーダーシップははっきりと示されていますので、後はこの2つがそろそろかなと思っております。

ここで質問をさせていただきます。私が今提案をさせていただきました西尾市の保育・学校スマート化における課題が、今何であるか感じていらっしゃるかをお聞かせいただきたいというのと、先ほど申しましたとおり、こういうスマート化ですね。かなりのパワーがいるというのを、会社でやっけていても感じております。例えば、テクノロジー人材

の確保も今非常に難しい状況ですので、このあたりを市民ボランティアチーム等でお手伝いできることがないかなという提案をさせていただきます。

### 総合政策部長／近藤芳英

西尾市では、本年5月に人工知能、いわゆるAIやパソコン上の事務処理の一部を自動化することができますRPAなどの技術を活用して、事務の効率化を図ることを目標とした庁内組織、スマート自治体推進プロジェクトを立ち上げております。保育園や学校のスマート化につきましても同プロジェクトに含まれておりまして、効果の高いもの、実現可能なものなどから順次、取り組んでまいります。

現時点で予定しております取り組みといたしましては、主に未就学児を対象とした子育ての分野において、LINE上での質問にAIが自動応答で応える仕組みを来年度中に運用を開始し、保護者の利便性の向上と問い合わせに対応する職員の負担軽減を図ってまいります。

ご提案のアプリの導入につきましては、瞬時に情報を伝達することや、膨大な量のプリントをスマートフォンで整理された形で確認できるといった一定の有効性は認められるものの、一方で保護者がアプリを使いこなせる環境を前提としていること、多言語化の対応などの課題もございます。

また、家庭で子どもが保護者に便りを渡す中で育まれるコミュニケーション能力や親子の触れ合いについても高い教育的価値があるといった意見もございます。

最後にアプリ立ち上げを支援するボランティアチーム結成とのご提案につきましては、保護者からのご協力は非常にありがたく思います。アプリを導入する際の最終段階のテスト工程、あるいは試験運用期間においては、構築業者や職員だけでなく、保護者の方々などにもご意見をいただければ、よりよいものになると考えます。テストを行う際にはご協力を呼びかけたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 大溪明日香

ありがとうございます。既に具体的にAIを使った自動応答等の計画があるということで、非常に楽しみに感じます。アプリの導入をお手伝いさせていただきたいというお話なのですが、ぜひ導入段階から保護者の参画をさせていただけるとありがたいです。あと、先生方やほかの保護者の方に、どんないいことがあるというのを丁寧に説明していく場も必要だと思いますので、そのような場面もお手伝いさせていただければうれしく感じます。

続きまして、もう一つ質問させていただきます。

先ほど、子どもたちが学校から持ち帰ったお便り等を親に手渡すことで高い教育効果のあるコミュニケーション能力がということだったのですが、アプリケーションで情報が電子化された場合は、仕事の合間にそういう情報が親としては得られますので、子どもに「今日、こういうことがあったんだね。どうだった」という問いかけの時間は、むしろ増えるかなというように思っております。そのあたりはどう思われますでしょうか。

### 教育部長／永谷和夫

仕事をしながら子育てをされている保護者の皆様にとっては、大溪様の言われるよう

な考えは、もっともなことだと思っております。また、学校での出来事や宿題を、家庭で子どもと触れ合う機会としてくださることは、学校側にとっても大変うれしいことだと思います。一方では、全ての家庭に連絡や情報を漏れなくお伝えすることを考えた場合に、祖父母が子育てをしている家庭や外国籍の家庭など、さまざまな家庭環境がございます。また、配布するプリントを使って子どもたちを直接指導するケースもありますので、今のところは紙媒体を配布せざるを得ないと考えております。

しかしながら、今回、大溪様からご指摘をいただきました、保育園や学校のスマート化については、実態も踏まえながら今後前向きに検討していかなければならないと考えております。

### 大溪明日香

ありがとうございます。最後に感想を述べさせていただきます。

まず、今日このような場をいただきまして、本当にありがとうございます。私は西尾出身なのですが、約10年西尾を離れました。子どもが生まれたことをきっかけに戻ってまいりました。戻ってきてすごく感じるのは、西尾は地域のコミュニティが非常にしっかりしている。みんなが何となく子どもを見守って育ててくれる。親として非常に安心できますし、子どもにとっても、とてもいい教育環境だと感じています。

ただ、一方で、やはり地域の活動が働く親にとっては非常に負担になっている。ちょっと限界だなというのも強く感じております。やはり、絆を維持する時間こそ残すべき時間だと思いますので、いろいろな活動において作業の時間を減らし、コミュニケーションの時間を多くとる。そういう市政を進めていただけると市民としても非常にうれしく感じます。長くなってしまいましたが、どうもありがとうございました。

### 議長／本郷照代

大溪明日香さんの質問が終わりました。

次に、7番目の質問者、松井知代美さん。

### 松井知代美

通告に従い質問させていただきます。

私からは、子育て家庭の支援について発言させていただきます。

私は現在、民生児童委員・主任児童委員として0歳から18歳までの子どもと、その保護者を見守り、支援する活動をしています。年2回、中学校いじめ・不登校・問題行動対策協議会に出席していますが、毎年、不登校や引きこもりの児童生徒が増加しているようです。学校の先生方は、生徒や保護者と向き合い、予防や問題解決に向けた支援を行ってくださっています。小中学生で学校に登校できない子どもは、本市においては学習支援と学校復帰を目指すあゆみ学級に通うことができます。

先日、高校生の子どものを持つ保護者から、「子どもが不登校になってしまった。どうすればよいか」という相談を受けました。以前、家庭児童支援課で18歳までの子どもの相談については受けると聞いたことを思い出し、その保護者に話をしました。義務教育段階までは先生方のサポートや、あゆみ学級のように子どもたちが通う場所がありますが、高

校生で不登校になったり、高校卒業後に引きこもりになってしまうと、成人期への引きこもりへ発展するリスクが高まり、長期化が懸念されます。

また、昨今、親による子どもの虐待により未来を担う子どもたちの命が奪われる痛ましい事件が後を絶ちません。児童虐待の問題は夫婦間におけるDV問題なども関連していることもあり、多くの場合、親も子も自ら支援の必要性を訴えることが少なく、問題が重症化してしまうケースが多いように感じます。

児童虐待については、虐待予防のための取り組みや小さな虐待の早期発見、早期対応が重要だと思います。ハイリスク家庭へのきめ細やかな支援やケアや、各種相談等で集められた情報の集約化など、児童虐待、DV、不登校や引きこもりなど、複雑多様な問題に対しては、ワンストップサービスで専門的・総合的に対応する相談機関の開設に期待したいと思います。そこで、3つの質問をいたします。

1つ目は、厚生労働省は引きこもりに特化した専門的な第1次相談窓口としての機能を有する引きこもり地域支援センターを都道府県指定都市に設置し、愛知県では「あいちひきこもり地域支援センター」が設置されています。

また、県内の各保健所においても、引きこもりに関する相談を受けていますが、市役所において引きこもり支援相談する専門の窓口はありますか。

#### 教育部長／永谷和夫

引きこもりの支援相談は、西尾保健所が主体となって行っておりまして、西尾市では専門の窓口を設置していないため、問い合わせがございましたら保健所をご案内しております。ただし、西尾市としましては、ニートや引きこもり、不登校や発達障害など社会生活を営む上で困難を有する子どもや、若者に対しての支援体制を整備していくことは必要であると考えておりまして、引きこもりの支援・相談に特化した専門窓口ではありませんが、総合的な相談窓口の設置に向けて調査研究をし、現在準備を進めているところでございます。

#### 松井知代美

ありがとうございました。総合的な相談窓口の設置に向けて準備を進めていただいているということで、安心いたしました。

続いて、2つ目の質問に移ります。

不登校・引きこもり支援団体であるNPO法人若者自立支援塾ONE STEPが西三河を中心に活動されていると思いますが、引きこもり問題への支援について、このような支援団体と連携を図っていますか。

#### 教育部長／永谷和夫

現時点では市として直接的な連携を図っておりませんが、先ほどご答弁申し上げましたとおり、今後、子どもや若者を支援していく総合的な相談窓口を設置していく上で、行政だけでなく関連機関をはじめ各種団体との連携が必要になってくると考えております。

なお、NPO法人ONE STEP様とは、市政に市民の声を反映させるために、今年度から実施しております出張・市長のどこでもトークの第1回目に懇談をさせていただい

ております。

#### 松井知代美

ありがとうございました。それでは、3つ目の質問に移ります。

児童虐待を含めた児童相談件数は増加傾向にあります。家族形態の変化により核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などが進み、問題が潜在しているケースが多くなっております。本市における今後の児童虐待防止に向けた具体的な取り組みについて教えてください。

#### 子ども部長／山口留美子

先ほど、松井様が述べられましたとおり、特に子どもを持つ親としては、胸をしめつけられるような虐待の報道がされております。本市の児童虐待防止につきましては、この11月が虐待防止月間です。この期間に広報へ特集記事の掲載や市内で開催されましたきらまつり、全国お茶まつりに出向き、啓発用品とチラシを配布するなどのイベントでの啓発活動等、市民の関心の喚起と相談窓口の周知を図っております。

また、児童虐待は早期に発見することが重要ですので、幼稚園、保育園、小中学校等へ子どもの虐待対応マニュアルを配布し、子どもからのサインを見逃すことなく、心配な様子があれば家庭児童支援課へ連絡していただくようにしております。

ほかに情報連携を図るため、健康課、子育て支援センター、家庭児童支援課で子育て世代包括支援センター連絡会議を毎月開催し、それぞれの担当から特定妊婦、気になる家庭の情報交換をしております。

今後も児童相談所、警察等関係機関と連携を図り、児童虐待防止と早期発見に努めてまいります。

#### 松井知代美

ありがとうございました。児童相談所や警察など関係機関と連携を図り、児童虐待防止と早期発見に努めていただけているとのことですが、一時保護件数などについて再質問をいたします。

今年度の一時保護件数を教えてください。また、その後、施設へ入所した子どもたちの人数も教えてくださいと思います。よろしくお願いします。

#### 子ども部長／山口留美子

今年度9月末の虐待による一時保護は12人、その後の施設入所はございません。

また、虐待以外のケース、これは保護者の生活の立て直しや病気、犯罪による逮捕などですが、一時保護は2人、施設入所はございません。

参考までに、平成30年度の虐待による一時保護は22人、その後の施設入所は2人です。また虐待以外での一時保護は11人、その後の施設入所は6人となっております。

#### 松井知代美

ありがとうございました。私は継続して行政と連携を図り、地域の方と心配な家庭、児

童、保護者を見守っていきたいと思います。

しかし、成人の引きこもりに関しましては、地域の方も知り得ない、わからないこともあるように感じます。市役所内において相談、支援窓口の早期設置を希望いたします。ありがとうございました。

#### 議長／本郷照代

松井知代美さんの質問が終わりました。以上で本日の日程は全て終了いたしました。

ここで、私から一言お礼を申し上げたいと存じます。

ただいまは、第2回目の西尾市女性議会が無事終了いたしまして、準備に当たってくださった関係者の皆様に改めまして心からお礼を申し上げたいと存じます。

今日ご登壇いただきました質問者の皆様は、日々の生活や活動の中からお気づきになったことを、本当に女性ならではの細やかな視点で質問、あるいはご提言いただきまして感謝をいたしたいと思います。

政治とは日々の生活そのものである。このように先輩議員から教わりました。本日も登壇くださった方々は、皆さん子育て、ごみの問題、そして広く農業、水産業にわたり、あるいはまたIT化に向けた自治体の取り組みなどを取り上げていただきまして、まさしく生活者の目線と感じたところでございます。

今後の皆様方のますますのご活躍をご祈念するとともに、今後はことさら女性議会と冠をつける必要のない西尾市議会になるように期待をいたしまして、私からのお礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

これをもちまして女性議会を閉会いたします。

#### 総合政策部長／近藤芳英

皆さん、ありがとうございました。長時間にわたりお疲れさまでございました。

それではここで、中村市長から、本日のご総評を申し上げます。

#### 市長／中村 健

7名の女性議員の皆様、本当にそれぞれのお立場から率直にご意見・ご質問をぶつけていただきましてありがとうございました。個々に僕のほうからコメントをさせていただきたいと思います。

まず、最初に登壇していただきました鈴木清子さん。1つ目のクリーンセンターの話でありますけれども、車が並んでいて、なかなか時間がかかるというところは、ほかからも多数ご意見をいただいております。特にホワイトウェイブの利用が増えます夏休み期間中などは、それが直接的な原因で、一般的な交通事情も迷惑がかかってしまっている部分がございますので、できる限りの対策は取り組んでいきたいというところと、2点目の男女共同参画のところでございますけれども、アメリカのヒラリー・クリントンが言っていたところのガラスの天井というものは、僕は日本社会にもまだあると思っています。そうした中で、行政としてそうした仕組みづくりですとか、機運の醸成というところで、女性がしっかりと活躍できる、そういった環境は整えていきたいというように思っております。

その一方で、本日ご参加いただいた皆様みたいな方々が、風当たりは強いかもしれませんが、そんな中でもしっかりと活動、行動、発言をしていただくことが女性活躍の道を開いていくことだと思いますので、そういったところで今後のご協力もいただきたいなというように思う次第であります。

2番目に登壇していただきました鋤柄美和子さん、農業の話であります。発言されていまして、農業というものは多面的な役割があると思っていますので、ただ食料の確保というだけではなくて、環境保全の面ですとか、そういったところも非常に大事だと思っています。西尾市としては、その一方で、ものづくりというところも、この地域の発展を支えてきてもらった重大な産業であります。ですので企業を誘致していく中で、現実的に農地が減っていつている部分はあると思っていますけれども、ものづくりの発展と農業の発展がうまくバランスをとり、調和できるような形というものを模索していきたいというように思っています。

それと、スマート農業については、現在で言うところとキュウリ農家の皆さんが本当に日本最先端の取り組みをしていただいております。そうした時代の最先端をいく取り組みをしていると、若い皆さんからも農業というもののイメージが変わってくると思うので、そういった形で頑張ってもらっていて、担い手の確保にもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

3番目に登壇していただきました鈴木百合子さん、西尾駅周辺の賑わいということで、今回民間の企業になりますけれども、城下町プライドができたということは、中心市街地の活性化を考えていく上で、僕は非常に大きいと思っています。よく聞く声の中に、「駅周辺で飲み食いができる場所が欲しいね」ということは聞いていたんですが、なかなかそれが実現できなかった中で、9月、10月の2カ月間でありましたけれども、城下町PRIDEの皆さんが頑張ってもらったおかげで、みどり川沿いで、屋外でビールが飲んだりできるということができるようになりましたし、そういった民間ならではの発想と行動力に期待しながら、中心市街地の賑わいを取り戻して、楽しい駅前になるように、市としてもしっかりとサポートしていきたいなと思っています。

次に、4番目に登壇していただきました尾崎百合江さん、災害時における要配慮者の避難と事前対策ということで、市民の生命と財産を守る防災・減災というところは、我々行政としても非常に基本中の基本であり、また、重要な分野であると考えております。そうした中で、これからの時代は一人一人へのきめ細やかな防災・減災対策というところが非常に重要になってきて、その一環として、例えば、福祉避難所の整備ですとか、要配慮支援者への個別計画というところになってきています。これについては現在進行形で、正直まだまだ西尾市としても十分だとは言えない状況ですけれども、いざというときに少しでも被害を抑えて、犠牲者を減らせるようにということで、今後も力を入れていきたいなというように思っています。

その一方で、発言の中にもありましたけれども、やはり公的な援助に頼り過ぎないということも大事でありまして、防災・減災というものは、自助と共助と公助がしっかり機能する中で災害に強いまちづくりができると思っていますので、地域としての活動ですとか、お一人お一人の備えについても、しっかりと協力を求めていきたいなと思っています。

5 番目に登壇していただきました柴田桂子さん、本当にご主人が漁業に携わっておられるということで、心に刺さる質問、ご意見でありました。漁業といっても地域によって何で生計を立てているかというのは異なるのですけれども、西尾市は何といってもアサリであります。落ち込んでいるという一言で表現できないぐらいにアサリの資源が落ち込んでいまして、本当にこの状況があと2年、3年続いていってしまうと、廃業していく人がどんどん増えて、三河湾でアサリをとってくれる人がいなくなってしまうのではないかと、いう危機感を持って取り組んでいます。

やはり、担い手確保といっても水産資源がとれない限りは担い手は増えないと思いますので、すぐに結果が出ないかもしれませんが、愛知県と協力して、何とでもアサリ資源は復興できるようにという形で、全力で取り組んでいきたいと思っています。

6 番目に登壇していただきました大溪明日香さん、本当にわかりやすいプレゼンをしていただきましてありがとうございます。お話の中にも出てきましたけれども、人口が減っていく中で社会としてやらなければいけないことというのは、多分減らなくて、下手をすると増えていくと思います。そうすると、一人一人の負担が増えるという中で、それをどう軽減していきつつ、社会としての活動が下火にならないようにするかというところは非常に重要な視点であって、そのためには僕も同じような考えで、テクノロジーの活用というものは、1つの活路を見出す方法にあると思っています。

そうした中で一口に「テクノロジーを活用しましょう」とか、「スマートな自治体を目指しましょう」と言っても、なかなかぴんとこない部分があるのかなと思っていますので、今回、西尾市がPay Payと協定を締結したのは、一番メリットがわかりやすいところの入り口として感じていただこうということでやりました。このスマート自治体の取り組みについては、やっていなくて頭だけで考えても、それがいいか、悪いかというのはわかりにくいというように僕は思っています。ですので本格導入をするか、しないかという話をする前に、1回試しにやってみようよという取り組みが多分必要なのかなと思って、それをやってみる中で実際に導入すべきかどうか、そういうものを考えていくべきかなというように思っています。そういった中でも、行政のほうから一方的にこれをやりますよではなくて、いろいろ関係者の合意を図りながら、まずはこれをやってみましょうかねという形で進めていくのが一番いいのかなと思っています。

最後、7 番目に登壇していただきました松井知代美さん、子育て家庭への支援ということで、近年引きこもり支援ですとか、あるいは児童虐待ということで、非常にセンシティブな事例がふえています。こういった問題については、組織に人を合わせようとする、結局たらい回しになって、「この件はあっちに行ってください」、「この件はこっちに行ってください」ということで、結局人を助けるということに機能しないのだと思います。人に組織を合わせるということが大事で、それが簡単に言うとワンストップということだと思います。西尾市では、特に若者、子どものそういった引きこもりをはじめとする支援については、義務教育中というのは、学校のほうである程度ケアができるのですが、卒業してしまうと、なかなか社会から、言い方は悪いですが、外れてしまうような形になってしまって、家庭だけでその子を守るということになってしまいかねないので、行政として、その人を1つの窓口で支援できるような形を整えていきたいというように思っていますし、また、児童虐待については、本当に記事を読むたびに心が痛くてしょうがない

のですけれども、市としては家庭児童支援課というところで全力で頑張っています。これからもそういった痛ましい事件が西尾で1件も起こらないようにという形で取り組んでまいりますので、また、民生委員の皆様方にもご協力をいただく中で、一緒に住みよい、子育てしやすい西尾市をつくっていききたいなと思っています。

本日7名の方々から、それぞれのテーマでご意見・ご質問をいただきましたが、本日のテーマだけを見ても、本当に多種多様であります。西尾市が抱えている問題、課題というものも、これに限らず本当に多種多様でありますけれども、一つ一つの問題、課題に対しまして、それぞれの関係部署であったりとか、それぞれの職員がしっかりと向き合って、その問題に対して何ができるかということを考えて、熱意と知恵を絞って、1つでも多く改善できるようにという形で取り組んでまいりたいというように思っていますので、また、皆様方のほうで市政に対して何かご意見ですとか、ご感想があれば、女性議会だけでなく、市民の声制度ですとか、あるいは行政が主催する懇談会などもありますので、そういった場でご意見を聞かせていただいて、共に力を合わせて住みよい西尾市を創ってまいりたいというように思っていますので、よろしく願い申し上げまして、僕からの総評に代えさせていただきたいというように思います。本日はどうもありがとうございました。

#### **総合政策部長／近藤芳英**

以上をもちまして、令和元年度女性議会を終了いたします。皆様、大変お疲れさまでございました。

閉会